

在職中の高次脳機能障害者の 職場再適応に向けた支援技法の開発

はじめに

障害者職業総合センター職業センターにおいては、高次脳機能障害者の就職、雇用の安定、復職等に資するために、個別の特性に応じた支援プログラムの実施を通じ、高次脳機能障害者の自己理解の促進、補完手段の習得及び事業主支援を目的とした支援技法を開発し、その成果の伝達・普及を進めています。

近年、医療技術の進展等を背景に、脳血管障害等を発症した方の入院から退院に至る期間の短縮化が図られたことで在職中に発症し高次脳機能障害と診断された方の職場復帰のタイミングも早まっており、中には障害の自己理解が不十分だったことで職場復帰後に課題が明らかになる状況も見られています。そのため、職業センターでは個別的な支援の重要性の認識のもと、自己理解を進めるために本人の目標や関心事からアプローチする方法を試行し、その取組を紹介した経過があります（「高次脳機能障害者の自己理解を進めるための支援技法の開発（実践報告書No.42 令和7年3月）」）。

入院期間の短縮化による影響は地域障害者職業センター等へのヒアリング結果からも窺われており、高次脳機能障害者の職場再適応に苦慮した企業からの相談増加にもつながっているとの結果も踏まえ、本実践報告書ではこれまで職業センターで培ってきた支援技法や支援ツールを在職者支援向けにカスタマイズするとともに、試行モデルの実践を通じて支援の実施方法や留意事項などを報告しています。

本実践報告書が、在職中の高次脳機能障害者の職場再適応に向けた支援の現場で活用され、職業リハビリテーションの質的向上の一助となれば幸いです。

令和8年3月

独立行政法人高齢・障害・求職者雇用支援機構
障害者職業総合センター 職業センター
職業センター長 那須 利久